



浄敬寺だより

じょうきょうじ

発行日 令和二年八月十三日 三十五号



感染症対策
必需品



←盆参会↑お持ち帰りのおとき
↓夏休みお楽しみ会↓



【法語】

念仏には無義をもつて義とす

『歎異抄』第十章

真宗聖典六三〇頁



【意識】

念仏においては、意味付けを超えているということが
本当の意味です。

【解説】

私たちは有意義な日々を求めます。できる限り迷惑をかけず、健康で充実した豊かな人生を送りたいと思い、正しさ(正義)に憧れます。しかし、それは果たして本当に正しい生き様でしょうか。私たちの危うさはこの『正義』にあります。

例えば、ウィルス感染を恐れて県外ナンバーの車に悪戯したのも、東京から帰省してきた方のお家に誹謗中傷の張り紙をしたのも、何の悪気もない、むしろ自分の正義を貫かれた「正しい行い」だったのかもしれない。

「自分が人生を問うていた」ことから、「人生から自分が問われてくる」。そのような転換が起こるのが、お念仏申す生活です。

コロナ禍の生活は不自由かもしれませんが、自分が妄信してきた正義を覆し、今まで気にも留めなかったことを知らされるご縁が、目の前に散りばめられています。

☆コロナ禍に思う由☆

希に見る長い梅雨も明けて、暑い夏が戻ってきました。令和二年七月豪雨では各地で甚大な被害が生じ、多くの方が亡くなられました。心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。新型コロナウイルスの感染拡大に加えての豪雨ですので、本当にどうして良いのかわからない日々を送っておられる方も多いと思います。膨大な泥水が家の中に浸水した後始末を年老いた方がやってている姿を見ますと胸が詰まる思いです。くれぐれもお体に気を付けていただきたいと思いますし、国からは是非とも手厚い援助をお願いしたいものです。

さて、コロナ対策として三密回避が重要だと言われます。これは密閉、密集、密接を避けるということと専門家の方々から特に指摘されていることです。ところで、そもそも三密とは、空海がひらいた真言宗を始めとする密教の教えであり、具体的には「身密（しんみつ）」、「口密（くみつ）」、「意密（いみつ）」の三つの密で、密教の最も大切にしなければいけない教えと言われます。コロナ対策で言われる三密とは全く意味が違うのですが、私たち真宗門徒の信心の生活を思う時、このコロナ対策でいう三密も本来欠くべからざることだったように思います。春以来、多くの催しを取り止めになりました。法話を例にとれば、限られた部屋の中で多くの方々にお集りいただき、共に顔を突き合わせて信心について意見を交わし合う場であったわけです。これが三密の懸念があ

るということとで、実施できない状況が続いてきました。年中行事も同様で、大勢の方が集まって正信偈を唱和し、楽しく語らいながらお齋をいただくという形がとり辛くなりました。御本山からは法要の時にはマスクをして読経するのが望ましいというお達しも来ています。読経中はさすがに呼吸が苦しく葛藤していますが、それ以外はマスク、消毒を欠かさず、参詣の御門徒の皆様にもお願いをしています。これから新しい生活様式ということとで、ソーシャルディスタンスなどということが言われますが、これが社会の常識となる日が来るとは理解が追いつきませんし、そういう社会が本当に温かみのある社会だろうかと考えさせられます。

人と人の距離が離れてしまうということは、相手の細かな表情を通しての感情の機微も見えなくなります。町ですれ違った方から挨拶をされたのにマスクをしているためにどなたか分からなかったということも何度かありました。コロナ禍は人間の繋がりを様々な形で分断してしまう危機をはらんでいるように思います。今はただ一刻も早い医療的対策が確立されて感染の収束を待つしかありませんが、その先には、このコロナ禍を逆縁として「共に生きる」生活、何の差別も偏見もない堅固な同朋社会が実現されていることを願わずにはおられません。

合掌

（住職）

☆庫裡便り

浄敬寺の日々の出来事から
坊守の所感をお伝えします。



◎お陰様で三年間の組・教区の坊守会の役員を無事終了いたしました。月に二〜三回の三条別院通い、年二回の本山研修の中で、沢山の「出遇い」と「学び」をいただきました。不安の中で引き継いだ役職でしたが、支えていただいた皆様や寺族に感謝しています。

◎マスク着用でのお参りをお願いして盆参会(盆内)を厳修致しました。久し振りにご門徒様が集まってくださり、胸があつくなるほど有難かったです。今年は精進寿司をお持ち帰りいただきましたが、お斎作りを生きがいのようにしていました。とりまして張り合いの無い期間が続いています。秋の彼岸会、十月八日のお引上げにはお斎が再開できるよう願っています。

◎春休み、学校休校の間、毎朝のお参りと声明の練習、三条別院での得度考査を済ませ、いよいよ八月七日の得度式に向け、青々とマルコメ頭になった小坊主二人(長男・次男)が元気に出発しました。

僧侶としての第二の誕生日を祖母として祝ってやりたいと思います。

◎コロナウイルス感染が心配される中、陽性になった方の辛さはいかばかりかと思われまます。先日の市長様の市民への呼びかけの言葉に改めて大切なことに気づかせていただきました。



(坊守)

☆二〇二〇年前半ご報告

新型コロナウイルス感染症への懸念もありましたが、「今できることを大事に丁寧」との思いで運営した今年度前半の行事です。巻頭の写真と共に読んでください。

春彼岸お中日

(三月二十日)

新型コロナウイルスが猛威を振るい始めた頃、寺族だけでお勤めする内勤めの寺院も多かつたようですが、何とか皆さんとお勤めできないか…と考えお勤めしました。手作りのおときを断念し、高柳の「とくぜん」さんのお弁当を皆様にお持ち帰りいただきました。

盆参会

(七月十四・十五日)

柏崎市内に感染者がおられなかったことから、おときのみ断念し、盆参会兼新盆法要を厳修いたしました。住職の法話に続き、住職・当院・准坊守・参詣の皆様とでお勤めしました。おときには、「魚河岸」さんから精進寿司の折詰を作っていたいただきお持ち帰りいただきました。



夏休みのおたのしみ会

時短版

(八月一日)

『世界にひとつだけのマイ念珠作り』

毎年大賑わいなお楽しみ会、境内での楽しいゲームも、みんなで食べる夕ご飯も、肝試しもリスクが高すぎる…。でも、行事が何もかも中止になってしまった子ども達と、何かやりたい！と企画したお念珠作り。細かくて難しい作業もありましたが、皆さんお気に入りの一本が出来上がったようです。



☆二〇二〇年八月以降の行事予定

八月十三日～十六日 孟蘭盆会（お盆）

十三日・・・午前六時より 本堂にて勤行

＊お盆の棚経は例年通りお勤めいたします。

九月十九～二十五日 秋彼岸

＊お中日 二十二日（秋分の日）午前十時半～

法話・勤行・おときがあります

十月八日（木）午前十時～ 報恩講お引き上げ

法話 今泉 温資 師

引き続き 勤行・おとき

「報恩講」は、
真宗門徒にとって
最も重要な年中行事
です

＊五月十九日より延期しての厳修

十一月二十九日（日）しまい講 午前十時半～

＊法話・勤行・おときがあります

十二月十三日（日）年末法話会・物故者追弔会

午後一時半～（講師未定）

＊定例法話会『歎異抄』をよむ会は、年内は中止させていただきます。二〇二一年一月より再開予定です。

＊新型コロナウイルス感染症の状況によって、変更を余儀なくされる場合もございますので、ご承知おきください。速報はホームページに掲載いたします。



☆当院の仏教名言集 第三十回 『名をいただく』

先日、仕事中に三男の弘信から「トトロのDVDは何処だ？」と電話がありました。忘れた頃に見直したくなるのがジブリ作品です。昨年の今頃、子どもたちと一緒に宮崎駿監督の名作『千と千尋の神隠し』を見たことを思い出しました。

私の中で、物語中の色褪せない言葉は、ハクという龍の少年が主人公千尋に言った「名を奪われると、帰り道がわからなくなるんだよ」というセリフです。いわば「確かな名をいただければ、帰る場所に迷わない」ということです。阿弥陀様の衆生救済はいのちの名、阿弥陀様の名「南無阿弥陀仏」を称えさせ、いのちの帰る場所お浄土に生まれさせる、という構造です。それだけに親鸞聖人は「ただ念仏申せ」と言われたのでした。初めてそのセリフを聞いた時に、大変感動したことを覚えています。

次男の顕信に好きなセリフを尋ねると、千尋の「仕事をさせてください」と答えました。それぞれ感動ポイントは違います。（当院）

☆編集を終えて…

八月七日、長男・唯信と次男・顕信が東本願寺にて得度式を受け「僧侶」となりました。この時期に京都へ出向くことには、不安や葛藤もありました。しかし、人は生まれた以上、病み・老い・そして死んでいくことを説いているのが仏教であり、このような現状だからこそ、教えの言葉がより響くのも事実です。第一歩を踏み出したことへの「自覚」はまだ実感として湧かない様子の息子達ですが、沢山の方から「おめでと～」と声を掛けていただいたことの深い意味を、生涯かけて考えてもらえたらと思っています。どのような状況下であっても、どんな今日を生きるかはその人次第である…そんなことを思う戦後七十五年、コロナ禍の夏です。

（晴香）

